水産研究・教育機構 機関リポジトリ
FRA Japan Fisheries Research and Education Agency Institutional Repository

南の島にはサメがうようよ舞泳ぐ

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 水産総合研究センター 公開日: 2024-06-24 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 與世田, 兼三 メールアドレス: 所属:
URL	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2008574

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.

ちゅら海便り

― 南の島にはサメがうようよ舞泳ぐ ―

石垣支所長　與世田兼三

例年、お盆明けに石垣市では「離島漁業再生支援交付金」の予算の一部を使用し、サメによる漁業被害を軽減するためのサメ駆除を実施しています。サメ駆除については、電灯潜り部会、篭網部会、及び一本釣り部会の３部会が実施しており、駆除したサメは八重山漁協に水揚げされ、魚体測定後には解体されて地元で処理されており、その映像は全国的に放映されるようになっています。このサメ駆除の認知度が高まり、測定後の魚体を研究材料として利用したいという研究機関が年々増加し、実際に作業を行う地元の関係者と各研究機関の間で混乱が生じていました。このため、本年度は石垣支所漁業資源研究室が中心となって石垣市水産課と八重山漁協の３者で事前に協議を行い、魚体測定後の標本の取扱に関する取り決め事項を作成し、サメ駆除の前に各研究機関へその資料を配信し、さらに、当日の作業前には関係者の顔合わせと説明会を行いました。現場作業の責任者は八重山漁協の市場課長が担当し、測定作業については石垣市水産課と八重山漁協の職員、及び各研究機関の関係者が協力し合って滞りなく測定作業を終えることができました。今回は一本釣り部会が実施したサメ駆除の概要を紹介いたします。

一本釣り部会のサメ駆除には、９月 11 日～12 日の２日間にわたって延べ 16 隻の漁船が石垣近海から与那国近海まで出漁し、60 ～ 130m の水深帯に延縄を仕掛けました。延縄の餌にはカツオの丸味を用い、30m 間隔に 140 本の釣り針を仕掛け、一鉢の延縄は 4.2㎞の長さです。この２日間の延縄漁で合計 77 尾のサメが八重山漁協に水揚げされました。その内訳はツマジロが 34 尾（44.2％）と最も多く、ついでイタチザメが 32 尾（41.6％）、ネムリブカが３尾（3.9％）、その他にはトンガリサカタザメ、クロトガリザメ、オオテンジクザメ、レモンザメがそれぞれ１尾ずつ（1.3％）となりました。最大個体はイタチザメの雌で全長が 3.9m、体重はなんと 442kgもあり、腹腔内には数十個体の胎児を有していました。ツマジロとイタチザメは 60 ～ 130m の水深帯で混獲されていました。イタチザメは沖縄方言ではイッチョと呼ばれて、最も獰猛な人食い鮫として漁師やダイバーに恐れられており、宮古島では数年前にサーファーがこのサメに襲われて命を落としているのは記憶に新しいことです。また、オオテンジクザメは全長が 2.74m、体重は 127kgありましたが、このサメの好物はタコであることから沖縄方言ではタコクワヤー（タコクイザメ）と呼ばれています。しかし、このサメは吸引力が強いことから、オーストラリアでは危険なサメのリストに入っているようです。

写真１．人食い鮫で恐れられているイタチザメ

写真２．サメの測定風景

（撮影者：鈴木　伸明）